Chapter 4 : またガチャが全てをぶち壊す・後編

レックウザの爆発的な死の余韻の中で、バンギラスは荒い息をつきながら周囲を見渡した。岩の体には乾いたキラキラと血がこびりついていた。

エーフィとブラッキーはまだ手を繋いだまま、ぼんやりと事態を把握しきれずにいた。

突然、バンギラスが二匹の頭をガシッと掴んで、無理やり押し付けた。

「キスしろォォ！！今しかねぇ！！ロマンスにはトドメが必要なんだよ！！」

「ぐえっ……！」  
「きゃっ！？」

潰された顔がベリーのようにむにゅっと変形。

ようやく手を離すと、二匹は数回まばたきしてから、仕方なく本当にキスをした。もう一度やられたくなかったのだ。

バンギラスが拍手した。「よっしゃああああ！！真実の愛の勝利だ！！」

しかしその時、彼の目が見開かれた。

遠くの野原で、ミミロップが花を摘みながら静かに鼻歌を歌っていた。

バンギラスの心臓がガリガリと不規則に跳ねた。「……俺の？」

ドスンドスンと彼は突き進む。

ミミロップが振り返った。そして凍りつく。

耳がピンと立った。「……最悪。」

花束を落とし、全力で逃げ出す。

「待てって！！俺は更生した！！金持ちだ！！心に傷もある！！」

彼女を追いかけながら、愛と金と贖罪を叫び続けるバンギラス。

その後ろで、ブラッキーとエーフィは草の上に座り、ようやく落ち着いた。

アブソルがため息をついた。「止めた方がいいか？」

ホウオウはゆっくり首を振る。「いや……因果応報じゃ。」

カメラは、夕日に向かって逃げるミミロップと、その後を必死に追うバンギラスをゆっくりとフェードアウト。

彼のバッグからは、まるでパンくずのようにポケコインがぽろぽろとこぼれていった。

【終……か？】

**あとがき：**

**なぜレックウザが死んだのか？**

正直言って、『ポケモンユナイト（あるいはディバイド）』におけるレックウザは、不公平で努力を踏みにじる力の象徴。中身のない、見かけだけのガチャボスだ。

ピカチュウのプレイヤーでさえ、スタンを狙ったりタイミングを計ったりしてる。でもレックウザ？ 天から降ってきて、チームファイトを無意味にして、最後にくしゃみでもした奴に勝利をくれてやる。

バランス崩壊の極み。このゲームの終盤にぶっ込まれた、最悪のギミック。

だからこのファンフィクでの彼の死は、意味がある。コインと困惑にまみれた最期。

バンギラスはただ転んだだけかもしれない。でもその一撃で、資本主義の亡霊にトドメを刺した。

世界のために、よくやった。